

会 議 録

会 議 の 名 称	第3回 枚方市総合計画審議会 第2部会
開 催 日 時	平成27年2月27日（金） 18時30分から20時5分まで
開 催 場 所	市役所別館4階 第2委員会室
出 席 者	部会長：吉川委員 副部会長：後閑委員 委員：伊東委員、角野委員、嶋田委員、谷本委員、富岡委員、橋本委員
欠 席 者	榮野委員、高井委員
案 件 名	基本計画に係る部門別の取り組みについて
提出された資料等の 名 称	1. 部門別の課題と対応一覧（案） 2. 部門別の取り組み進捗状況一覧
決 定 事 項	資料1及び資料2に基づき、基本目標「安全で、利便性の高いまち」、「健やかに、生きがいを持って暮らせるまち」、「一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち」に関する各部門について、基本計画に掲載していく課題や対応の内容を確認・議論し、引き続き、次回の部会で、残りの基本目標等について議論していくこととした。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	1人
所 管 部 署 (事 務 局)	政策企画部 企画課

審 議 内 容	
吉川部会長	<p>それでは予定より1分程度、早まっておりますが、ただ今から第3回の枚方市総合計画審議会の第2部会を開催させていただきたいと思っております。先ほどもお話がありましたように、大変タイトな時間ですので、まずは事務局の方から委員の出席状況等、簡単にご説明いただければと思います。</p>
事務局	<p>本日の出席状況は8名で枚方市附属機関条例に基づき、この部会が成立していることをご報告申し上げます。</p>
吉川部会長	<p>それではお手元の方に、第2部会の次第があると思っておりますが、案件「基本計画に係る部門別の取り組みについて」ということで、本日の議題とさせていただきます。</p> <p>先ほど、全体会議の方で資料1「部門別の課題と対応一覧(案)」について、事務局の方からご説明がありました。委員の皆様におかれましても、この資料を中心に、また、先ほどもご説明がありましたが、資料2「部門別の取り組み進捗状況一覧」もございませう。こういうものをご覧いただきながら、ご自由にご発言をいただければと思います。ご発言いただいた内容は、ホワイトボードに記入させていただきまして、部会の最後に取りまとめをさせていただいて、共有化を図っていきたくて考えています。先ほどからもお話がありましたように、1時間半程度ということですので、今日は5つのうちの3つの基本目標ということなので、だいたい各基本目標につき30分程度ぐらいで、ご議論いただければというふうに思っております。先ほどからもご説明がありましたように、基本目標の1つ目は「安全で、利便性の高いまち」ということで、ここから1つずつ30分程度でやっていきたくて思っておりますが、よろしゅうございませうか。</p> <p>それでは皆さんのご了解が得られたということで、そのように進めさせていただきたいと思っております。資料1のまず1番目の基本目標「安全で、利便性の高いまち」、1～3ページまであるかと思っておりますが、ご意見をうかがってまいりたいと思っております。どなたでも結構です。ご自由にご発言いただければと思います。</p>
角野委員	<p>1つ目の「安全で、利便性の高いまち」というところなんですけれど、上の白丸(○)のところ、「市民の防災意識を高めることで、地域における防災力の向上を図ります」ということなんですけど、具体的にということが今後問われてくるだろうと思っております。</p> <p>また、「防災」の1つ目の、1番上の段の「取り組みの方向」のところ、「地震等の災害発生時に被害を軽減できるよう、市の防災体制を強化するとともに」とありますが、これは行政側の備えであつたり、セーフティーネットをどこまでやっていくかという話になるかと思っております。ここで重要なのはその次の「市民がお互いに協力し合える関係をつくること」というところで、具体的にどういうことなのかということが気になっていまして、網羅的に書かれているのは、行政の役割としてどのようなセーフティーネットを張っていくか、備えをしていくか、ということになるんですけど、実際は、最終的には市民一人ひとりの能力やスキルっていうものが、ものすごく問われてくるということになる。これはどこの世界でも防災に関して限界がありますから、その時に市民一人ひとりが自らや周りの人々の生命、安全を守っていく力を身につけること、これが市民参加の1つの形態なのだというふうに思っております。</p> <p>「新消防本部庁舎開設」もどうやらありそうなので、消防署が様々なことをやっているいろんな講習ありますよね。たまたま、私、学校教育の方が専門なので、人と接する仕事をする学生というのは、基本みんな消防本部の救急救命の講習に行きます。実際にスキルを身につけています。実はこれ調べましたらね、全国どこに行っても、基本的に同じ内容の講習がされています。行政の方もおそらく初級とかやっていると思うんですけど、1日8時間の上級救命講習というのがあって、最終的に一人ひとりが何かをできるっていうのは、一緒になって力を合わせてということもあるけど、一人ひとりの力が求められてくると。そういうことでは、最終的にはこういう市民参加において、市民一人ひとりが力をつけていこうというような方向性を出せば、もう少し具体的になるかなと。「左欄の具体的な事業例」の中に、「新消防本部庁舎開設に伴う消防機能の強化」とか、あるいは市民団体のところにもそれに近づくようなことが結構書かれているんですけど、そういう意味では最終的に一人ひとりが何ができるか、というのが大きな力になると。</p> <p>例えば、学校現場でもいろいろな組織をつくっているんですけど、避難所にはなるけれど何もできないと。AEDを使えない、救急救命できない、どう対応していいかわからないということなので、ここで「市民がお互いに協力し合える」というのは、目</p>

後閑副部長	<p>前の人を助けたりとか、それは普段でも自分や周りの人の生命を守ることにものなるので、こういうふうなことを「取り組みの方向」にもうちょっとだけ出したほうがいいのではないかと。市民団体とか事業者っていうのは、何らかの枠組みがあるので動きやすいですけど、一人ひとりは何をやればいいのか、自分だけがとまどうだけということになるので、そういう方向が少し出ればなというふうに思いました。以上です。</p> <p>防災の中に、市民の意識とか防災力というふうな力と、それから環境整備ということがあると思うんですね。なので、ここにいろんなことが入っているので、環境整備というハードの面と、それから市民の意識だとか防災力を向上するというソフトの面と、それからそれをシステムとして結びつける何らかの行政のやり方だとかっていうふうに分けていくともう少し明確になってくるのかなと思います。1番上のところは意識のこと、次は環境のこと、その次に体制を整えるというふうに分かれてはいるんですけども、それをもう少し明確にしてみると、市民に何をしてもらいたいのか、行政の方で環境整備をしていきますってことが書きやすいのではないかなと思います。</p>
吉川部会長	<p>これを拝見していると実は災害発生時って話が多いんですね。実は発生時っていうのは先ほどの話ではないですけど、あんまり何も期待できないわけで、災害前にどういふことがあるのかとか、発生時はどういふことがあるのか、ある意味で時間軸で考えていくっていう話もあります。</p> <p>それから、先ほど角野先生と後閑先生のお話をうかがっていると、自分自身で助かるという自助、市民の皆さんと一緒に助かっていく共助、あるいは、行政がやりますよっていう公助があります。こういう3つの柱があるんじゃないかなと思うんですが、後閑先生がおっしゃったような切り分け方と、今、私が申し上げた切り分け方というものと、角野先生がおっしゃった教育みたいな部分というものが重なって、総合計画で積み上げる部分はどこなのかっていう気がします。</p> <p>総合計画の基本計画として取り上げるときには、全体を目配りした上で、こういう部分が必要なのかなと。まあ特にそういうのが防災というところに如実に出てくるんじゃないかなという気がしますけれども。</p> <p>まだまだ時間ございますので。</p>
富岡委員	<p>まちづくりは人づくりっていう面もあり、どう市民のところで育ててもらおうのかっていうところですね。ちょっといい加減なことを言って申し訳ないんですけども、日本の若者世代では、迷惑をかけないっていうところは意識が非常に高いんだけど、人を助けたりだとか、困っている人を助けたりっていうボランティア精神というところがちょっと劣っているというような傾向がある中で、このようなところをどう育てていくのかっていうようなところは、それこそ教育の問題と関わってくるのか、あるいはその働きかけなのか、その辺がうまく機能していくためにはどうしたらいいのかということ。それをどこまで書くのかっていうところもあると思うんですけども。</p>
吉川部会長	<p>1ページ目が「防災」と「災害医療・保健」とに分かれています。具体的な課題を見ていると大規模災害発生時というようなところがありますので、一括りでご意見いただければと思っているんですけども。どちらかという、非常時の場合で、多分、次の「生活安全」というのは日常ですよ。そのような枠組みになっているというような気がしています。</p>
後閑副部長	<p>防災意識を高めることで防災力の向上とありますが、防災意識を高めることは平常時からいざという時に備えていくのにどうしたらいいかという意識だと思うんですね。起きた時にどうしたらいいかっていうことよりも、平常にどうしたらいいのか、非常事態にどうしたらいいのか、その後どうしたらいいのか、その3つの時間軸があり、なおかつ公的なもの、それから自助、共助の部分といういろんな軸に沿ったものが全部ここに入っているような気がするんで、もうちょっと整理をうまくしていけばいいと思うんですけどね。</p>
吉川部会長	<p>委員の方々、ご意見いただければと思うんですが。</p>
橋本委員	<p>全体的なところになってくるかと思うんですが、右端の「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」のところなんですけれども、さっと全体的に見渡してみても、誰が何をするのかっていうところで、事業者がっていうのはいろいろ書かれているんですが、市民</p>

とか市民団体が主体というか主語といますか、そこがちょっとないので、部門によっては誰がするのかというところもあったりするんですね。今回の総合計画の1つのポイントというは、どれだけ実効性のあるものができるかっていうのがキーワードかもしれないので、そう考えたときに、ここから下位計画ができてきますので、誰がそれをするのかというところで、「市民、市民団体、事業者」とせっかく書いていますので、ある程度整理できるところは、主体が誰かっていうものを書いた方が、市民を含めて自分のすべきことがより明確化できるかなと思いますので、主体を明確化するのはいいんじゃないかなと思います。

それから他の先生方からお話があったかと思うんですが、強化するとか、連携を図るとかの内容が書かれているんですが、その中の1つにやっぱり情報を共有するっていうところが、1つキーワードになってくるかなと思っているんですね。個人情報ひとり歩きしているようなところがあって、そういったものがちょっと壁になって、情報共有がやりづらいとか、今職場でもそういった話をよくするんですが、学生の情報はどこまで教員が持つておくべきか、そういう議論もあって、本来のテーマにいくまでにいろんな壁があって、そのへんで皆さんの意見が割れたりして、なかなか本来の本題にいくまでの壁が多くなって日々いろいろ感じるころがあります。おそらくそれは地域でも社会全体でもそうなのかなというところがあるので、より実効性があるということであれば、やっぱり情報共有という言葉がちょっとどこかでいくつかの中に出てきても、良いのではないかなというふうに思っています。その先、連携とか強化推進っていうのが出てくるのではないかなと思っています。例えば、防災マップですとか、要援護者の名簿とかありますよね、そういうかたちのものは全て情動的な部分になってきますので、できればそういう文言等があればいいかなというふうに思っています。

それから2ページの方になるんですが、「道路環境」のところ、参考資料のデータとかも照らし合わせながら見ていますと、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」のところ「道路に異常箇所を発見したら速やかに通報」と書いてあるんですが、通報に対する行政としての受け皿というか、窓口というか、そういったことも本来は明記して初めて双方向的な色合いが見えてくるのかなと思っていて、そのへんがどこまで具体的な明記ができるかっていうところは議論の余地があると思います。今後そういった道路のみならず、虐待防止の通報とかいろいろあると思うんですけども、そういう通報を市民とか、地域により一層望んでいくのであれば、受け皿である行政の方であったり、事業者の方もそうだと思うんですが、同じような形での必要性というものも明記していくことも大事なのかなと思っています。特に道路のところ、市民の満足度も見えていますと、重要度は平均値より非常に高いのに、満足度は平均値よりも低いということで、そういった部分では非常にニーズの高い分野なのかなというところがありますので、通報があったときにすみやかに対応できるようなものを行政とか事業所サイドの取り組みの中に、あってもいいのかなというふうに思っていますので、そういうことを具体的な事業例の中に何か明記できればいいのではないかなと思っています。

それから最後、3ページですが、「公共交通」のところ、「市民、市民団体、事業者」のどこなんです、ずっと左からいろいろと書いているんですが、最後の取り組みが簡単すぎるなと思っています、「公共交通機関の積極的な利用」と、まあそうだよなという感じで。例えば、そういう人の流動的な流れをいかに公共交通機関に呼び込むかっていったところでのなにか市民、市民団体、事業者サイドでの主体的な取り組みのことをそこに明記するとかですね、簡単すぎるなと思ったので、実効性のあるということならば、もうちょっとそのへんのことをこれからは少し議論していかないといけないのかなというふうに思いました。すみません、以上です。

吉川部会長

はい、ありがとうございました。今の橋本委員のお話は「安全で、利便性の高いまち」というところに限らず、市民、市民団体、事業者と行政が情報を共有できるような施策をうまく組み入れなさいよということと、市民が積極的に関わるような内容を記載していくべきだという理解でよろしいですか。

橋本委員

そうですね。市民が積極的に関わっていくのならば、それに対応する行政であったり事業所も同じような明記がちょっと必要かなというかたちで、どうしてもこれだけだとまた絵に描いた餅のような感じになってしまうなど。それぞれが双方それなりの覚悟をしないとなかなかいろんな意味でうまく歯車が回らないなと思ったところです。

吉川部会長

はい、ありがとうございました。課題あるいは取り組み、ご意見ございませんでしょうか。

谷本委員	<p>皆さんの大きい話とは全然違うかもしれませんが、今後4年とか8年とか、12年とか先について書いていくとしたら、防災の上から4つ目の災害時の緊急情報の発信の部分ですが、「非常通信体制の強化」というだけではなく、ICTの活用というか、いろんな手段がたくさん出てきていて情報インフラを整備して、インターネットを使ってでもありますし、スマートフォンやタブレットを活用したりとか、いろんなツールが出てきていると思います。枚方市にもそういった話がたくさん持ち込まれていると思うんですけども、この先、「防災」と「災害医療・保健」にも関わってくると思うので、災害時、どこの病院でどういった体制が整っているのとか、そういった情報網を発信して、市民も受けられるような文言を加えていくことをやっていただきたいと思います。</p> <p>これはちょっと無理かもしれないんですけども、「左欄の具体的な事業例」とかが載っているんですけども、例えば「防災」という切り口の後ろに、例えば道路整備であったりとか、「公共交通」とかですね、他の部門との関連性とかですね、その相互の関連性が示せたら、このテーマについては1部門の取り組みではなく相互的にまちづくりをしていっているみたいなものが見えるような資料ができれば、すごくありがたいんじゃないかなと思いました。</p>
吉川部会長	<p>具体的にしようとするとなかなか難しいかもしれないんですけども、前半の方のシステムっていうのは先ほど、橋本委員がおっしゃっていた情報共有をよりICTで実現化をしていくっていう話、多分いろんな面で使える話だと思いますので、それは具体的にに入れていったらいいのではないかなと思います。ひょっとしたら具体的な事業例があるのかもしれませんが。</p> <p>「生活安全」の方に情報通信技術についてがありますけれども、これは情報保護の取り上げ方になっていますから。</p>
谷本委員	<p>2ページ目には守ることがかかっているんですけど、守るには活用されていないといけないということがあると思ひまして、活用するにあたってこう守りますっていうこともあるのかなと。「生活安全」のところで書かれているのは、どちらかという市が個人情報管理しますということおっしゃっているような文章になっているんですけども、これは、次回のテーマの「行政運営」のところで書かれるものなんじゃないかなというふうに思ひます。それよりは、「生活安全」の中で情報を守ることを書くとしたら、今いろんな犯罪とかで個人情報とかが使われていることを市民にもっと明確にして、個人情報を守りましょうとか、カードの情報を守りましょうといったことを市として市民の皆様にお伝えしていくというようなことがここには必要なんじゃないかなと思います。</p>
吉川部会長	<p>たくさんのご意見をいただいておりますが、道路、生活安全、防災、公共交通、住環境はちょっとまだご意見出てないですが、全て網羅的にということが必要なのかなとは思ひますが、どうでしょうか。</p>
谷本委員	<p>続けてもう1つだけ言ってもいいですか。「道路環境」なんですけど、割と具体的に道路のことが出ていると思うんですけど、これは過去のことを知らないのでも聞きたいんですけど、阪神高速道路が守口で止まっているのを枚方まで伸ばしていただきたいっていうような、そういうことは明記できないのかなと。私個人的には阪神高速に乗るときにバイパスを通っても混むことが多いですし、なんで中振まで来てないのかなと思ひますけど、それは明記できないものなんですか。</p>
事務局	<p>すみません、よろしいでしょうか。新名神高速道路の関係はあがっていますが、こういった高速道路の整備につきましては、基礎自治体としては国への働きかけということになります。国が進める計画を基に、行政として、枚方市として働きかけをしている道路となれば、現時点では新名神高速道路へのアクセスなどということになってまいります。</p>
後閑副部会長	<p>3ページ目の「公共交通機関の積極的な利用」というところですが、ちょうど橋本委員から簡単すぎるという意見がありましたけど、まさにそうでも私もバスを利用するんですけど、やはりバスの本数が少なかったり、行きたいところにバスが通ってなかったり。本数を増やせば事業者は赤字になるでしょうし、かといって利用する方としては利便性が低い。積極的な利用をして下さいと書いたとしても、じゃあ市民が積極的に利用できるかというところという状況ではないと。とつても頭が痛いところなんですけども、どう</p>

吉川部会長	<p>いうふうにしたら積極的に利用できる環境ができるのかってところが、これからの課題じゃないかなあと思うんです。本数が多くな、もっと細やかなところに入ってくれば、良いだろうなとは思いますが、そういうわけにはいかないですね。</p> <p>上の方では人口 41 万と言ってるんですけど、実は下の方は人口減少やと。実は私自身の分野なんですけど、国の方では、市街化区域を縮める、駅の周辺に住んでもらう、公共施設を駅の周辺に置くという施策に転換しつつあるところで、1つのくくりの中で矛盾を抱えているところがあると思うんですね。そうなるということは益々、枚方でも駅から遠いところへのバスの便利がどんどん減らされていくということにもなりかねないんですが、あんまりネガティブといいますか、暗い話は基本的にはやめましょうという話が前回から出ていたと思うので。</p>
嶋田委員	<p>最初の方の話に戻ってしまうんですけど、市民が防災発生時だったり、日頃、どんなふう意識を高めたりだとか、つながりがもてるかっていうのが、大切になるんじゃないかと思うんですが、取り組みの進捗状況の資料の「施策指標の推移」のところ、建物に関するものはすでに目標値を超えているものもあり、このままいけば目標に届かないというの見えるんですが、「自主防災組織が年 1 回以上の訓練を行った割合」が平成 20 年から始めて、4 分の 3 の時期が過ぎているのに、半分くらいというのがすごく問題じゃないかなと思います。こういうのを見ると建物とかそういうのはやるって決めたらすぐに目標値には到達できるんだけど、市民に働きかけをして、促す、働きかけをするってなったら、やっぱりここが壁になってくるんじゃないかなとすごく思います。</p> <p>あと、左の「事務事業の実績（主なもの）」を見ても建物だったり、水道だったりっていうのが多いなと。市民への働きかけというのは上の方の「地域防災推進員育成事業」があたるのかなと思うんですが、やっぱり防災のときに主力になって働いてもらう地域の方って想像したときに、お年寄りの方ばかりにこの育成事業に行ってもらってだけでなくて、やっぱり若い世代とか、今働き盛りの世代に来てもらって、ここ十数年だったりしばらくの間、そういった技術やスキルを持ってその地域で活動していただくところになるんだと思うんです。ここら辺も具体的に年代、どのような方が参加されているのかとか、推進員に選ばれる方っていうのは、どういうふうに使われているのかっていうのを具体化していただいたら、活動されている方たちがどの世代がこういうことに興味を持って参加してくれていて、どの世代が参加してくれないっていうのがよく分かって、市民の参加の実情を把握することにつながるんじゃないかなって思ったので、言わせてもらいました。</p>
吉川部会長	<p>ありがとうございました。ハードの方の施策と今、嶋田さんがおっしゃったソフトの方の施策と。ハードは出来あがったら見えるんですけど、ソフトの方の施策って具体的にはどういう効果が上がったのかとか、あるいはどんな内容だったかっていうのはなかなか見えてこないところがありますよね。そのへんのところも、お調べいただいた上で、次のところで議論できればと思います。</p>
事務局	<p>先ほどの「地域防災推進員」の件なんですけど、今、年代までは把握できてないんですけども、平成 26 年度末現在で 467 人ということになっています。ですので、小学校区 45 校区ありますので、各校区で平均して 10 人程度になると思います。必要な研修を受けていただいて、修了された方が「地域防災推進員」ということで、地域での防災意識の普及・啓発など地域の防災力を向上させるための取り組みをしていただいている状況です。年代などにつきましては、担当課の方に聞いてまたご報告させていただきます。</p>
吉川部会長	<p>はい、ありがとうございます。10 分ほどオーバーしちゃいましたので、2 つ目の基本目標、これの方がボリュームが多くなっているみたいなので、全て網羅的には無理かなと思いますが、「健やかに、生きがいを持って暮らせるまち」とありますので、ご自由に賜りたいと思います。</p>
角野委員	<p>若い世代が枚方に住んでもらえるとかいうことを考えたときに、いわゆる周産期医療、ここの部分が私の知っているのは関西医科大学が結構有名で、認定されているということを聞いています。若い世代が入ったときに、市民病院が新しくなったので、これで大丈夫なんかなと思うんですけど、ひょっとしたらこういうのは近隣と連携しながら相互的に対応していくというような都市間のやりとりがあると思います。大阪府の医療施策全体の中でクリアしているとかあるんでしょうけど、若干いろいろと調べたら、</p>

	<p>地図の上にプロットしていったら結構、北河内には穴が空いてるなという感じがしまして、そのへんが少し気になって、あんまりこのところを今言っても仕方ないなと思ったりするんですが、ここに初期医療とか書いてあるんですけども、これは周産期、要は新生児とかお母さんとかそういう医療というふうにとっていいんですね。</p>
後閑副部長	<p>初期っていうのは、赤ちゃんとかそういうふうに特定したものではなくて、全ての人に対して、怪我をしたとか、病気になったとか、そういったときの初期の救急医療。そのように捉えればいいのではないのでしょうか。</p>
角野委員	<p>赤ちゃんのことはあまり触れられていないのかなっていうのがあって、それって結構不安ですよ。総合周産期母子医療センターの中に関西医科大学枚方病院が入っているのはありがたい話なんですけれど、市民 40 万ということですからエリアが広いということで、川の向こうは結構あるんですが、こちら側があんまりないと。枚方は東の方にもかなり開けていますから、おそらく市民病院はそういうことも当然想定していると思いますから、そこでは何らかの書きぶりを打ち出しておかないと大丈夫かなと。ここに来たらこういう体制が整っていますよというのがいるのではないかと。だいたい高齢者もそうですけれど、病院とスーパーが近くにあるかっていうのを絶対見ますから、そのときに若い世代っていうのはそこがやっぱり気になるところかなっていうふうに思います。</p>
伊東委員	<p>10 ページに「妊娠・出産」があって、その下に「子育て」があるんですけど、産んだ後は結構あるんですけど、産む前はあまりないなっていうのは感じます。高度の医療も大事なんですけれども、どこで産むかっていう産む場所、個人病院でも助産院でもいいんですけど、そういう施設を増やすっていう方向があれば、特色になるんじゃないかなって思うんですね。いろんなところに関わってくるんですけど、防犯でもそうですけれど、防犯って犯罪する人を防ぐ方向にいったら多分いいと思うんです。産む周産期というか、産前産後のケアはすごく大事で、産後ケアっていうよりも、産前の方が本当は大事なので、もうちょっとそこを増やしてほしいなあって思いました。産んでからでは遅いとは言いませんけども、実際にそういう本もあったりして、いかにお腹の中にいる時期が大事かっていうのを特徴としては出せると思うんですよ。でもやっぱり見えてないものを守るっていうのはなかなかシステムとしてはつくりにくいと思うので、もうちょっとそこを進めていただくとここで産もうかなあっていう人はいるんじゃないかと思います。結局、産前をどういうふうに過ごすかっていうのが、学力向上にもつながる。「一人ひとりの成長を支え」っていうのもそうなんですけれども、そこをちょっとページ数を増やしてもらったらと。</p>
後閑副部長	<p>安心して子どもを育てられるっていうところはあるかもしれないけど。安心して子どもを産めるっていうところですね。</p>
伊東委員	<p>場所ですね。</p>
後閑副部長	<p>転出入の数でいえば、0～4 歳は少ないんだけど、転入の方が多いのかなって。</p>
吉川部会長	<p>産むということで入ってきている人は増えているんじゃないですか。</p>
後閑副部長	<p>でも数は少ないですよ。でもそれを育てていく 20 代から 30 代は転出が多いです。</p>
吉川部会長	<p>学齢期がまた減ってしまっていますね。</p>
伊東委員	<p>産婦人科の数が減っているんで、人気のところは、はやくはやくと押し出され、ずれるとホルモンバランスが崩れて、おかしくなっちゃう。そういうところが、いじめとかにつながっていっちゃう気がするんで、増やすにこしたことはないと思います。助産師さんたちが助産院をつくらうという動きがあるので、もうちょっとそこを支援してもらったり、高度な機関が良いと思いがちなんですけども、そうじゃないところでも産めますよっていう話を宣伝するとか。</p> <p>それ以前に不妊治療のところもそうなんですけれども、学習というか教育をする場。後ろ向きなやつじゃなくって、前向きな教育を与えてくれたらなあと思うところもあり</p>

吉川部会長	<p>ます。また、がん検診のところもあったかと思いますが、検診も検診だけじゃなくて、講習から検診、講座の後に検診しましょうみたいなセットでやってくれたら行く気にもなるんですけど、検診のためだけに行きにくいところもあるので、システムというか、行ってほしいんだったら行きたくなるような体制にしてはどうかと思います。</p> <p>2つ目と3つ目にまたがっていますが、「健康」や「福祉」の面とか、いかがでしょうか。</p>
橋本委員	<p>4ページからでもいいですか。ちょっと部門の提案と言いますか、今、「健康」と「健康危機管理」と「公衆衛生」に部門が分かれているんですけども、個人的には「健康」の中のこのころの病気というところと、薬物っていうところは、ますます重要視されていくところかなと思いますので、例えばこの2つは切り取って「健康教育」とかいう部門にできないのかなと一つ思っています。このころの病気とか、薬物っていうところは結構連動してくるかなと思いますし、これは世代間を越えての社会全体で考えていく必要性があるかなと思いますので、「健康」の中のひとくくりというよりは、より明確化させた方が良くはないかなと個人的には思っています。それにかわって、「健康危機管理」とかが「公衆衛生」と一緒にできないかなというところがあったりとか、逆に、「スポーツ」は健康の中に取り込むことはできないのかとかですね、部門を多少精査をしていく必要性があるかなというふうには思っています。</p> <p>それから6ページなんですけど、先ほど医療の話が出てきているんですけど、市民とか市民団体とかの取り組みで、「良好な医療サービスを提供」と書いているんですけど、もう1つやっぱりポイントとなる市民にできることは何かと考えたときに、病院ボランティアのような感じですね。実は私も、施策評価の方でも枚方市に関わっていますが、病院でいろいろな先ほどから言われているソフト面と言われるような対応っていうところを、今すごく求められている患者とかお母さんの方が多いいのかなというのがあります。専門職でできることと、市民でもできることっていうところで、地域の中の医療機関というところもありますので、できれば病院ボランティアの育成であったり、充実といった部分が取り組みの中に明記されてもいいのかなというふうに思いました。</p> <p>それから7ページからなるんですけども、「生活福祉」の問題がすごく増えてきていますので、その中にはいろんな問題をはらんでいる方もたくさんいらっしゃいます。なので、一概に民生委員さんだったり、ボランティア団体だけで、やってしまうっていうことになると、抱え込みとかが出てくるということもありますので、できればやっぱり民生委員さんやボランティアの方の研修ですとか、フォローアップといったところを行政であったり、職能団体とかがしっかり支援していくというふうな受け皿ですね、そういったことも具体的な事業例であるとか、事業者の取り組みの中に明記されても良いのではないかなと思っています。</p> <p>それから7ページの1番下のところで、世代間交流という言葉が明記されていて、とても大事なことだと思うんですけど、右に突き進んで行ってもあんまり世代間交流の具体的な部分が明記されていないので、例えば11ページの方の「学校教育」の道徳のところでも世代間交流について書くとかですね、ちょっとそういうふうにしていただいて、もう少し全体的な内容の精査は必要かなというふうに思っています。</p> <p>それから最後8ページなんですけど、障害者福祉のところなんですけれども、例えば一番右端のところ、「サービス事業者などは」と書いているところもあれば、「事業者は」と書いているところもあるんですけども、この辺の文言はもう少し我々の中で整理をしておく必要性があるのかなというふうに思っているところが1つ。</p> <p>それから最後に、「事業者は、それぞれの事業活動において、障害者に対する合理的配慮」ということを書いているんですけど、合理的配慮はすごい大事なんですけども、本当に障害者の方々の自立っていうことを考えるならば、就労が本来大事になってきますので、最後のところに事業活動だけではなくて、「それぞれの就労及び事業活動において」と書いていただいて、事業者が積極的に受け入れるだけじゃなくて、受け入れたその後ですね、皆さんが生きがいを持って働くことができようというところに入れていただくと良いかなというふうに思いました。</p>
吉川部会長	<p>はい、ありがとうございます。あと、「人権」「男女共同」「平和」がございまして、この辺りの切り分けもいいのかどうかっていうこともございますが。上にある基本方向ですか、これをブレイクダウンしたらこういうことになるよっていうことなので、全てを網羅的というわけではないのだと思いますが。</p>

後閑副部長	どこに入れていくのかが分からないんですが、子どもの虐待防止ですとか、あるいは、高齢者の1人暮らしが枚方でも多くなってきていると思うんですけど、そこに対するサポート等については、独居老人とか高齢者世帯が増加しているということがあると思うんですけど。
事務局	記載の場所ということでしたら、1つは高齢者もしくは障害者の虐待などの人権侵害という部分は、9ページの「人権」のところの2列目の方に記載していますのと、あと児童虐待につきましては、子育て部門のところ非常に大きな問題になっておりますので、10ページの方の「子育て」の部門のところ、上から3つ目の欄に書いております。
吉川部会長	はい。ということで、ちょっと先を急ぎますが、最後の3つ目、今「子育て」というのが上がりましたが、「一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち」という基本目標のところですが、いかがでしょうか。
富岡委員	ちょっと教えてほしいんですが、市民、市民団体のところですけど、「妊娠・出産」のところ、受診をする、あるいは積極的な情報収集・知識を習得しなさいっていうところはお母さんにしなさいって言っているんですかね。あと育児手技の獲得っていうのはお母さんにしなさいってことなのかなと。要はここがすごく具体的ですよ。お母さんに対するニーズがすごく具体的で、他のところは非常にあいまいで、お母さんに対しては非常に獲得しなさいとか知識の習得をしなさいというように非常に明確でちょっとどうなのかなという、これは誰を対象にして言っているのかなというのがちょっと気になりました。
事務局	こちらの方の欄につきましては、この場合でいきますと、母親となる方にそういった取り組みをいただきたいというところなんですけど、最初の話でもありました通り、主体であるとか、あと、どこまで市民の方々にお願いをするとか、そういったところの書きぶりを含めて、レベルがまちまちになっているところがありますので、今後、整理していきたいと思います。
後閑副部長	ここらへんのところって、母親が「育児手技の獲得」というよりかはむしろ、両親っていうか母親とパートナーが共に育児に参加するべきだと思うし、その育てている人たちに対して周りの市民もサポートしていただくような。今、電車の中に子どもを乗せたベビーカーを乗せることに対して、いろいろ非難があるんだっていうことを聞いたりすると、あるいは妊娠をしているときにバスや電車に乗っているときになかなか混んでいる中では席を譲ってもらうことも少なくなったっていうところを考えると、やはり母親だけで育てるっていうことじゃなくて、みんなで育てていくっていう社会意識と、もう1つは両親が共に子どもを育てていくというふうにならないといけないんじゃないかなと思いますので、誰がっていうところをしっかりと書いていかれた方が良いと思います。
富岡委員	他のところと書き方を合わせるとすると、例えば、「子育てサークルあるいは子育て支援事業に参加しやすいような環境づくりをして、参加を促す」とかの書きぶりになってくるのかなと思います。ここだけ「知識の習得」とか「手技の獲得」とか、書き方がずいぶん違うなと思います。
吉川部会長	基本的にこの欄は誰がっていうことが書かれているんですか。
事務局	「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」で、基本的に主語が書いていないところにつきましては、主体の全体を指すところで、主語が入っていない位置付けにしています。事業者がすべきことということで、特別に書いていく場合につきましては、主語を入れていることにしているんですけど、全てがそうなっているかと言えば、そうではありませんので、分かりやすく表記できるよう検討させていただきます。
伊東委員	「妊娠・出産」の「左欄の具体的な事業例」で、「子育て」については支援プログラムとかあるんですけど、不妊治療については医療費の助成しかないの、ここも支援プログラムとか、他のところと同じようなものがあつた方が、ここを充実させると子どもは自然と増えるので、もうちょっと重点を置いた方がいいんじゃないかなと思います。

角野委員	<p>10 ページの「子育て」の下から1つ目と2つ目が、ここ難しいんだろうと思います。だから、具体的な事例っていうのが抽象的になっていたり、「関係機関との連携強化」とか。ここの欄には「連携」という言葉がない方がいいんだろうなど、具体的に書き下ろす方がいいんだろうなど。それで、「取り組みの方向」について、もう少し踏み込まないと、これでは解決にはいかないだろうなど。実は私、大阪府の青少年問題協議会をやっているんですけど、まさにこれが大きなテーマになっているんですよ。ここの部分につながる前に当然、周産期から始まって、流れがあるわけで、学校教育も関係してきますけれど、ここのところを具体的に、例えば、立ち直り支援をどうするかとか、実は本当に具体で転がしていくプログラムをやらないと引っ張り出すことができませんから、中にもっているとか、あるいは児童虐待の場合には見えないところで行われる。早期発見なんて、基本的にはものすごく難しいと。学校に来ない子で、児童虐待のある子をどうやって見つけるのかという問題があります。児童虐待っていうと、幼児とか小学生低学年っていうイメージがあると思いますが、実は私、前に教育委員会にいたので、そのときに結構多いのが、中学生も高校生も対象になっているんですよ。だから、そういうことを踏まえて、ここのところを具体的にどうするかっていうのが、必要だろうと思います。学校教育が果たす役割もあるし、なかなか発見しにくいけれど、学校教育とどう連動していくかっていうのはものすごく重要だろうなって思いますので、私もここどういふふうな「取り組みの方向」に書き換えたらいいかっていうのは今浮かびませんが、ちょっとこれでは前に進まないなど。このままではまずいなということで、特に児童虐待の場合は大きな事件が起きてしまうと、ものすごい反響がありますから、ものすごいマイナスイメージがそのあたりに広がります。</p>
吉川部会長	<p>「子育て」「学校教育」についていっぱいあがっているんですけど、12 ページ見ると「生涯学習」では1つしかあがっていなかったり、「文化芸術」、「歴史文化遺産」っていうと、市の魅力を生むというところでは、もうちょっと何か出てこないといけないんじゃないかなという気がします。</p>
橋本委員	<p>10 ページもそうですし、11 ページもそうなんですけど、右端の「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」のところ、あまりにもたくさん書かれ過ぎていて、とっても読みづらいなっていうのがあって、主体も整理したらいいと思いますし、場合によってはカテゴリーかなんかで、きれいに並べるとか、読みやすさ、理解のしやすさ、デザインっていうのもすごく大事かなっていうふうに思います。あと、「左欄の具体的な事業例」だけどうして書体が違うのか、文字の書体がですね、そこはやっぱり特徴があるんですかね。</p>
吉川部会長	<p>ここは基本計画に出ないんですよ。</p>
事務局	<p>そのように考えています。</p>
橋本委員	<p>だから、あえて違うっていうことなんですね。</p>
事務局	<p>実行計画のレベルに該当してくるような事務事業ということで、書体を変えさせていただいております。</p>
橋本委員	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>あと、11 ページなんですけど、基本目標に「豊かな心」っていうことがありますけど、わりと「豊かな」っていう表現がよく用いられているかと思うんですけど、最近「考える力」っていうこともよく言われますので、基本目標の下のところにも「生きていく力」を育むんだということで、「豊かな心」だけでは心もとない部分もあって、「考える力」といったところが、「学校教育」の2つ目の「課題」であったり「取り組みの方向」の中にも文言として合わせて入っていてもいいのかなと思いました。</p> <p>それから「課題」の4つ目になりますが、登下校時の交通事故とか事件、事故の話があるんですけど、これは他のものとももちろん連動しているんですけど、「生活安全」の部門の方に持っていてもいいのではないかなというふうにも思いました。</p> <p>それから、下から2つ目の課題のところの「行政の主な取り組み」のところ、学校給食の充実とかいろいろ書いてるんですけども、他のところにも書いていたんですが、こちらの方でもぜひ「食育」のようなものも入ったらより効果的なのかなという感じで、こっちで書いてるからこっちには書いたらだめっていうこともないと思います</p>

ので、「食育」というところは非常に重要なところがあります。右端のところには、農業生産者の安定的な供給も書いてあるんですが、それに加えての、食品の安全性をどう確保するのかといったような明記もないとだめなのかなとちょっとそれも思いました。

また、この 11 ページの中には、ありとあらゆるところに環境づくりとすごく明記されているので、それでしたら基本目標の下の○のところにも、最後の「生きていく力を育む教育とその環境づくりを進めます」とかいう感じで、環境づくりという文言が入った方が整合がとれるんじゃないかと思いました。最後の 12 ページなんですが、先ほども市の魅力といった話があったんですが、「文化芸術」と「歴史文化遺産」は 1 つのくりでも良いのかなと思いついて、あまりにも部門が細かくなりすぎると、縦割りの雰囲気になりますので、ある意味、大きな枠組みにした方が互いに連動しやすいと思えますし、本来は部門ってもうちょっと整理していった方が良いのではないかなと。もう少し細かい部門は次の下の計画でしっかりと考えていくことかなと思えますので、この辺の部門っていうのが、議論をする中で減らせる方がかえって縦割りにならないんじゃないかなというふうな印象を持ちました。以上です。

吉川部会長

はい、ありがとうございました。

角野委員

「学校教育」のところ、これだと平成 20 年ぐらいの雰囲気がするんですよ。国の流れも先を読まないとだめだということで、例えばさっき「考える力」っていうのがありましたけれど、「確かな学力」っていうのが入っています。「豊かな人間性」っていうのも入っています。「生きていく力」なんですけれど、おそらく「健康体力」が抜けると。この三位一体っていうのは外してはだめだなと思います。

2 つ目に枚方がこの間、英語力向上で取り組んできた経緯がありますけれど、また合わせて、2018 年には小学生の 5、6 年生が英語が教科になります。そのことを踏まえたときに、枚方の打ち出しとしたら、英語じゃなかったんかなというふうに思えますので、ここは打ち出しておくべきだと思います。

それと、いじめの問題ですけれど、大変大きな問題になっていて、おそらく国の部局でもいじめの対策委員会とかいうのが設置されているだろうし、教育委員会も設置だろうと思います。義務化まではいいいっていませんけれど、学校のプログラムは義務化です。そのことについて、何ら触れていないというのはすごく気にはなります。

先ほど、「生活安全」のところという話があったんですが、私がここに置いてほしいと思うのは、基本、義務教育の子どもたちは自力登校で、学校に入ったとしても、学校が親からすると一番、安全で安心できる場所なんですけど、必ずしもそうではないという事案も頻繁に起きている。学校つながりがそこで大きな問題に発展しているということもあって、実はできたら安全教育に関するプログラムを打ち出す方がいいと。交通安全を含めて幅広く安全を捉えたときに、国交相がプログラムに関して補助金を出しているということをお聞きしたんですけど、総合的な安全教育のプログラムを打ち出すっていうのは、地域の人を巻き込みます。「学校安全監視員」「危険箇所の点検」って書いていますけれど、こんなのは昔からやっている話なんですけど、効果はないとは言いませんけれど、端から端まで面倒を見るわけにはいかないという問題がありますから、ここでは子どもたちが自らでも守るというスキルを身につけさせると。だから、防犯ブザーぶらさげても鳴らせない、女の子が腕つかまれてもよう振り切れないなど、様々な問題があって、これも防災も合わせてそうなんですけれど、最後は子どもの判断になっていくわけで、そういう意味でいうと、能力を引き出してあげるというのは当然いるというふうに思いました。

そして 1 つ書きぶりが決定的におかしいのが、いじめや不登校のところ。「いじめや不登校などの問題が深刻化する中で」の次、「社会全体で子どもたちの生きていく力を育む環境づくりが求められています」の「社会全体で」といったときに、このいじめや不登校っていうのは、ほとんどが学校と家庭だけです。関係機関はありますけどね。その具体的な事業例っていうのは全部教育委員会です。他の機関は入っていないですね。だから、教育委員会ばかりでやっていることをあげているのに、連携という言葉が出てくるので、「学校・家庭・地域関係機関が連携を図りながら」というのは使いやすいフレーズなんでよく入りますけれど、事業例が全く一致していないことがあります。

子どもの学校のこと考えて移動してくる人も多いですから、そういう意味でいうと、何か打ち出しがいろいろあるんでしょうね。学力と、どちらかといったら広い意味での安全ではないかというふうに私は思います。以上です。

吉川部会長	<p>ありがとうございます。</p>
伊東委員	<p>子どもが自分で身を守るということに関してですけれども、ワークショップでは古武術を入れたらどうかという意見があったんです。古武術って種類があると思うんですけど、ちっちゃい人がおっきい人をちょっとした力で倒すみたいなそういうものがあるみたいなので、そこを取り入れるとか。</p> <p>例えば、中学校でヒップホップダンスが入っているらしいんですけども、外国の踊りを入れる前に住んでいるところの何か、日舞でも何でもいいんですけど、そういうのを入れると特色にもなると思います。河内踊りでもいいんですけど、そういうふうな特色をこれからつけていけないといけないと思いますし、古武術だけじゃなく、柔道でもいいんですけど。そういうふうに他と区別するためにはやっぱり何か工夫をしないとイケないんじゃないかなって。いつも他と同調しているのが最近の枚方市にはあると聞いているので、そこを脱皮したらどうかなって思います。</p>
嶋田委員	<p>前の方なんですけれど、7ページの世代間交流の場の確保など、橋本委員もおっしゃっていましたが、どう世代間交流を作っていくのかなってというのが少し疑問で、盆踊りって言ったらやっぱりお年寄りが好んでやられているのかなってイメージがあると思うんですけど、世代間交流となったときに昔のことを子どもたちが知らないことを利用するのか、すでに子どもたちが知っているから同じ場を共有できるというところに焦点を当てるのかってというのがすごく大切なところかなと思っています。というのも、実際、河内音頭っていうのは八尾市がすごい河内音頭祭りとかテレビでも取り上げられるくらい大々的にやられていたりとか、柏原市の方では健康柏原 21 といって、河内音頭の踊りが高齢者の健康促進に効果があるというのを科学的に証明されているらしく、それを用いた健康のプログラムみたいなものを組みたてておられます。そういうのを見たときに、河内音頭は八尾が本場だっていうふうになってしまっているんですけど、実はここらへんが発祥っていう説があって、そういうことを考えたときに、文化的にも強く打ち出せるものがあったりとか。</p> <p>あといつも思うんですけど、私の校区だけじゃないと思うんですけど、なぜか小学校 5 年生の子は南中ソーランを運動会で踊るっていうことが毎年恒例になっていて、私の代もそうで、それから何 10 年も経っているのにまだ南中ソーランを踊っていて、南中ソーランっていうのは北海道の文化の踊りじゃないですか。そう思ったときに、さっき伊東委員がおっしゃられていたみたいに、地元の文化とか、枚方がもともと持っているものを子どもたちに教えたりとか、当たり前にはそばにあるものの形をつくって、お年寄りとかそういったものをツールにして交流するっていうのも、あり得るんじゃないかなと思います。</p> <p>基本目標とか考えていると、やっぱり縦串に割られているようなイメージがすごくあって、あの分野にもこの分野にも通用するっていうのがいくつもこれから出てくると思うので、もうちょっと柔軟に考えられるようにしたいなと思うんですけど、なんか難しいなって。表割にされると、なんかゆるく考えられないところが出てくる感じがして、難しいなって思います。以上です。</p>
吉川部会長	<p>はい、ありがとうございます。別々のページに入ってしまいますから、全体的なところがなかなか見えてこないところがあるので。実は、嶋田委員がおっしゃったように、横に同じような関連の、例えば、「文化芸術」と「高齢者福祉」、「生涯学習」といったようなことが横につながっているのかもわからない。そういうようなところがあるかと思っています。</p>
谷本委員	<p>先ほど角野委員がちらっとおっしゃった「一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち」の部分に、私もどうしても「スポーツ」という切り口、「体力」とおっしゃいましたけれども、それが子どものコミュニケーションにもつながる部分でもあると思っていて、そういったものの切り口がこの分野にはないと思います。この白丸(○)で読んだ時にはまるどころがないのかなという気がしてまして、その前のテーマの「健やかに、生きがいを持って暮らせるまち」っていうところには「スポーツ」があるんですけども、先ほど橋本委員がおっしゃったようにこの分野での「健康」の中の「スポーツ」という切り口なのかなと。ただ、子どもとか年齢関係なくですけど、自分の成長とか、そういった面での切り口の「スポーツ」というのも、生活を豊かにするっていうそういったものをどこの枠っていうのははっきりわからないんですけど、あってもいいんじゃないかと感じました。</p>

吉川部会長	<p>そうですね。私自身も古くさいですけど、知育、徳育、体育。最近は、知徳体芸って言って、芸ができないと良くないんじゃないかなって言うんですけど、今おっしゃったように知育だけではなく、徳育っていうのもあんまり書きづらいところもありますが、体育はおっしゃっているようなところかなという気がします。</p> <p>時間が迫っております。ちょっとコンサルさん、まとめてもらってもいいですか。</p>
コンサルタン ト（都市空間研 究所）	<p>（本日の審議内容について報告）</p>
吉川部会長	<p>はい、ありがとうございます。それでは次回は3月23日で、また部会で、今回の部門も含めて、残り2つと行政運営について議論をして参りたいと思います。</p> <p>次第の方にあります、「その他」ということで、これは事務局の方からお願いします。</p>
事務局	<p>先ほど、審議会の方でも今後のスケジュールということでご説明させていただきましたけれども、本日も議論いただきました基本計画のたたき台であります「部門別の課題と対応一覧（案）」につきましては、3月上旬から中旬にかけて、委員の皆様の方にお伺いさせていただきたいと考えておまして、お忙しい中、日程調整をどうかよろしくお願いたします。またお伺いさせていただいた際には、本日の資料1のうちの4つ目の基本目標以降も含めてご意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願いたします。</p> <p>また本日の資料等につきましてご不明な点、あるいはタイトな時間の中でしたので追加の意見等も合わせて、その際にお伝えいただくか、あるいは、電話、メール等で事務局の方までご連絡いただきましたら、幸いです。</p> <p>また本日の資料につきましては、机の上にそのまましておいていただきましたら、委員専用のお手元にご置きますバインダーの方に閉じさせていただきます。</p> <p>本日の会議録につきましては、事務局で案を作成させていただいた後に、各委員の皆様にご確認いただき、その結果を会長と調整いたしまして、決定したものをホームページで公表して参りたいと考えております。</p> <p>なお、次回の部会につきましては、3月23日（月）の午後6時からです。場所につきましては、枚方市駅のこちら南側になりますが、反対側の北口側でございます「ラポールひらかた」にて開催させていただく予定です。また案内の際につきましては、地図等で分かるようにさせていただきたいと考えてございますので、ご出席の方よろしくお願いたします。以上でございます。</p>
吉川部会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>それでは若干、予定の時刻を過ぎましたが、第3回の枚方市総合計画審議会第2部会を終了したいと思います。</p> <p>本日はお疲れ様でございました。</p>